

教育事業名	平成 27 年度 国立室戸青少年自然の家教育事業 自然ふれあい体験事業	
事業の趣旨	不登校等課題を抱える青少年が自然と触れ合う体験を通じて、人との関わりや達成する喜びを得るとともに、指導者間・保護者間のネットワーク作りを目的とする。	
対象者	不登校等心に悩みを持つ小・中・高校生およびその指導者・保護者	
実施期間	平成 27 年 10 月 8 日（木）～平成 27 年 10 月 9 日（金）1泊2日	
参加者 （人数／定員）	32 名／30 名	
活動プログラム	10 月 8 日（木）	10 月 9 日（金）
	10：00 心の教育センター発 12：15 とろむ着・昼食（お弁当） 13：30 ドルフィントレーナー体験 14：30 とろむ発・自然の家へ移動 15：00 自然の家着・オリエンテーション・休憩 16：00 野外炊事・夕食 19：00 片付け・点検 19：30 入浴・保護者会 21：00 スタッフミーティング 21：30 就寝準備 22：00 消灯・就寝	6：30 起床・洗面・清掃 7：15 退所点検 8：00 朝食 8：45 自然の家発 9：15 海浜活動センター着 着替え・説明・準備 とろむに移動 オーシャンカヤックまたは磯観察 11：30 海浜活動センターに移動・片付け シャワー・着替え 12：00 昼食・休憩 13：00 振り返り 13：30 海浜活動センター発 15：30 心の教育センター着・解散
活動の様子	10 月 8 日木曜日（1 日目） 高知県心の教育センターの募集に、高知市周辺からだけでなく、西部や東部からも応募があった。小学生 6 名、中学生 4 名、高校生 4 名、保護者 8 名が参加。四万十市の支援員 1 名、心の教育センタースタッフ 9 名を合わせて、32 名で本年度の自然ふれあい体験事業がスタートした。 屋過ぎに海の駅とろむに到着。思い思いの場所で昼食を食べた後、ドルフィンセンターでイルカに関する説明を聞き、トレーナー体験を行った。イルカに触ったり、餌をあげたり、指示を出してジャンプさせたりして、トレーナー気分を味わうことができた。最初は表情が硬かったが次第に笑顔になり、楽しそうに活動する参加者がいた一方で、母親のそばでゲームをし続けたり、他の参加者から離れて歩き回ったりして、いっしょに活動できない参加者もいて、彼らの抱える課題の深さを感じた。 自然の家へ移動し、オリエンテーションの後は休憩時間をとった。四万十市からの参加者は早朝から何時間も車に乗って来ているので、ゆっくりと体を休めてもらった。 16 時から野外炊事。2 班に分かれて、カレーライスとサラダ、デザート（バニラアイスを入れた焼きりんご）を作り、外でおいしく食べることができた。大人が多かったこともあるが、子ども達も協力してスムーズに作業を進めることができ、第 1 ロッジの展望台から美しい夕陽をながめるゆとりもあった。初めての薪割りを楽しそうにする小学生や、トレーナー体験はできなかったが野菜の皮むきを一生懸命行う高校生の姿が印象的だった。	

	<p>子どもたちの入浴と並行して、保護者会が開かれた。初めて参加した保護者からは、心の教育センターの日常の活動について質問が出た。また、家庭の外での我が子の様子を見て感じたことを話すなど、保護者間で交流することができた。</p> <p>10月9日金曜日（2日目）</p> <p>起床後の寝具の片付けや部屋の清掃という、参加者にとっては日常生活とは異なるハードルの高い活動を予定通りに行うことができるか心配していたが、参加者どうしの協力やスタッフの声掛け、指導のおかげで、朝食の時間に間に合うよう移動することができた。</p> <p>海浜活動センターへ移動し、オーシャンカヤックと磯観察に分かれて準備をした。その後、室戸岬新港でオーシャンカヤック、その北側の浜で磯観察を行った。海浜活動センターでの集合や準備に時間がかかり、実際の活動時間が短くなったが、オーシャンカヤックではバディが声を掛け合いながらパドルをこぐことができたし、磯観察でも磯の生き物や浜に打ち上げられた物を見合って楽しく活動・交流することができた。近年、台風の接近による高波や、希望者が極端に少なかったこと等により、オーシャンカヤックが実施できていなかったが、今年は晴天の下、小学生から高校生が7名と、保護者・スタッフが4名、合わせて11名が体験することができた。</p> <p>海浜活動センターに戻って、片付け・更衣の後、昼食・休憩。午後1時から振り返り（アンケートに記入）と閉会行事を行った。今年は天候にも恵まれ、参加者が協力し合い、ゆとりを持って活動を進めることができたということ共有して閉会した。</p>
<p>事業の成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 野外炊事で使った鍋をていねいにみがきながら、「借りたものやから、きれいにして返さんといかんやろ。」と小学生の息子に話していた父親の姿が見られた。家から離れ、親子で一緒に過ごす時間が十分に持てたことがよかったと思われる。 ・ 多くの活動を詰め込むような無理をせず、休憩時間をとるなどゆとりのあった活動計画だったので、一人ひとりが自分のペースで進めることができた。
<p>事業の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2日間の事業をきっかけに、参加者のこれからにつながっていくようにしたい。高知県心の教育センターが行っているフォローアップに可能な範囲内で参加したり、参加者のその後の様子を聞いたりして、参加者個々の変容を追跡し、今後に生かしていく必要がある。 ・ 毎年活動内容が同じなので、高知県心の教育センターと連携を深め、参加者の自立のためにも質的な変換を図り、より有効的な体験内容を提案、支援していきたい。
<p>参加者の感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな活動を通してコミュニケーションをとれたので、とても楽しかった。 ・ 全員で協力して野外炊事を行ったことで、参加者同士も仲良くなれたので、来年も続けてほしい。 ・ 何度も来ているので、やることが同じなのが少しさみしく感じた。